

質問番号

11 - 2

平成27年第4回定例会

答弁資料（一般質問）

一問一答方式

質問者 中西 智子 議員

質問要旨

2 子どもの貧困対策について

① 箕面市における子どもの貧困に関する認識について

② 具体的な課題と対策について

答弁者 子ども未来創造局長

7世帯、1,307名、平成26年度は、1,086世帯、1,323名とほぼ横ばいの状況で推移しています。

経済的困窮にかかわらず、家庭の状況によっては、ネグレクト等によって、学校給食のない土日に昼食をとれないことがあるケースもみられ、要保護児童対策協議会等を通じて関係機関が連携して対応を図っているところです。

なお、昼食をとらずに水を飲んで空腹をしのいでいる子どもなど虐待が疑われることを見聞きされたときは、男女協働・家庭支援室等の関係機関に通報、連絡いただきますようお願いいたします。

経済的な支援や要保護児童の対応に加え、今年度からは、生活困窮家庭やひとり親家庭で学習支援が必要な児童生徒への学力保障・学習支援事業を実施しており、これらの子どもの貧困対策に関連する事業において、子どもや家庭の状況について把握を行っているところです。

貧困の連鎖を断ち切っていくためには、ライフステージを通して切れ目なく子どもや家庭の状況をトータルに把握し、実態をつかんでいく必要があると考えています。

以上でございます。

ii) 9月議会で答弁のあった「子どもの貧困の連鎖根絶をめざすプロジェクト」の検討について、現在の進捗を問う。

<答弁>

子どもの貧困の連鎖根絶をめざすプロジェクトの検討状況について、ご答弁いたします。

首長と教育委員で構成する箕面市総合教育会議が本年8月に開催され、箕面市の教育大綱案について議論を行いました。そのなかで、貧困の連鎖を断ち切るためには、教育の果たす役割は極めて大きく、重点課題として取り組むべきではないかといった議論がなされました。

現在、社会的な状況や今般の議論などをふまえ、教育委員会の関係部署や健康福祉部の生活困窮者支援の担当部署で関係者会議を開催し、貧困の連鎖を根絶するための手法についての検討を進めています。

生まれ育った環境によって子どもの将来が左右されることがないように、「貧困の連鎖」を断ち切っていくために、個々の事業における、子どもや家庭の状況の把握にとどまらず、まずは、先ほど申し上げました、子ども一人ひとりに着目して、乳幼児期から小中学校期、高校期などを通じて、切れ目なく子どもや家庭の状況をトータルに把握する仕組みづくりを優先事項として検討を進めているところです。以上でございます。

② 具体的な課題と対策について

- i) ひとり親家庭の半分は貧困状態といわれている。子どもの思いを受けとめ、相談にのって寄り添うことができる体制づくりが必要と考えるがいかが。

<答弁>

ひとり親家庭等の子どもの相談窓口や体制づくりについて、ご答弁いたします。

小中学生については、学校において、ひとり親家庭など生活困窮の状況にある子どもも含めて、常に子どもの様子を把握し、気になることがあれば寄り添いながら相談にのり、必要に応じてSSW等と連携をしながらケース会議で検討を行い、対応を図っているところです。

また、思いを十分に言葉にしにくい就学前児童については、保育所、幼稚園などで、同様に保育士、幼稚園教諭等が気になる兆候に気を配って保育教育を行っており、未就園、在宅の就学前児童についても、例えば、毎夜、泣き声が絶えないなどの状況の通報を得て、児童虐待の通報の窓口や関係機関において、子どもの安全安心を確保するべく対応を図っています。

今後、子どもや家庭の状況をトータルに把握する仕組みを整えるなかで、国が示している「学校プラットフォーム」

の考え方も参考にしながら、必要な施策のあり方について
検討を進めていきます。

以上でございます。

- ii) 地域との連携で、子どもの居場所や「子ども食堂」など、さまざまな地域で市民協働で取り組みができればと考えるかどうか。

<答弁>

市民協働による子どもの居場所等の取り組みについて、ご答弁いたします。

本市では、子どもの貧困の解決に向けて、既に、地域においてNPO等が、子どもの居場所事業などに取り組まれています。

貧困の連鎖を断ち切っていくためには、さまざまな取り組みが必要となってくると考えていますが、その際、行政だけでは担いきれず、地域の方々やNPOと協働して取り組んでいくことが求められるととらえており、その広がり期待しています。

以上でございます。